

①【複数年度(1年目)】歩行者利便増進道路制度の機動的な運用やエリア物流マネジメントによる都心部中通り魅力化に向けた社会実験(北海道札幌市)

1. 実験概要、留意すべき項目

- 道路空間における賑わい空間創出、時間帯別に道路空間の運用を変化させた荷捌きの整序化により、歩行者利便増進道路制度の機動的な運用による持続可能な運営体制構築を検証する。
- ほこみちや路肩の柔軟な活用に関する有効な検証であり、タイムシェアや寒冷地ならではの課題解決に向けた取組は事例がないため、参考事例となる可能性が高く、推奨すべき取組みとなること。

2. 今年度の調査内容、調査結果

①現地状況調査

⇒荷捌き車両の動向、トラックバスの運用状況等を調査

②道路空間利活用方策に関する聞き取り調査

⇒ワークショップを開催し、道路空間利活用方策案を抽出

③実験全般に関する関係各所への聞き取り調査

⇒ヒアリング調査を実施し、配慮、留意すべき事項を抽出

【大通南1条中通線(丸井今井)の時間帯別に運用を変化させた道路空間の柔軟な活用イメージ】

実験前



貨物車専用パーキング・チケットの駐車マスを埋め尽くす車両(一般車も混在)



周辺メイン通りの路上駐車



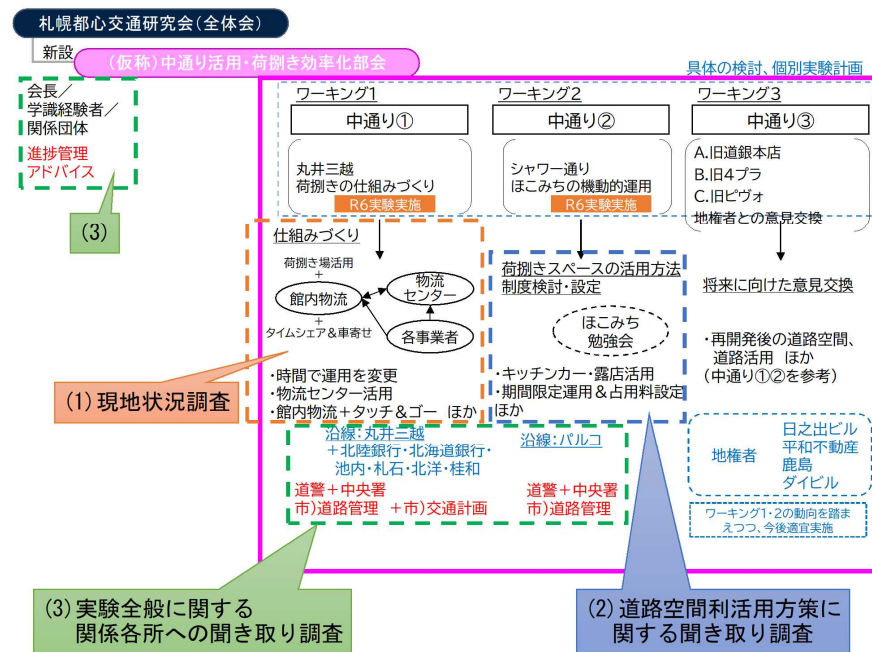
中通りの狭い歩道と荷捌き状況

↓
パーキング・チケット運用を見直し、新たな荷捌き方法を実験

↓
周辺も含めた荷捌き整序化を検討

↓
荷捌き整序化、安全対策により歩行者が安心・安全な運用へ

道路空間の活用状況



調査のイメージ

3. 次年度の社会実験に向けて

実験メニュー	実験内容
時間帯別に運用を変化させた道路空間の柔軟な活用及びエリア物流マネジメント	荷捌きの整序化、荷捌きストックポイントを活用したエリア共同配送を実施
道路空間における賑わい創出	新たな賑わい空間としてキッチンカーや販売スペース等を設置
地下配送時の配送員追尾自動運転ロボットの導入可能性の検討	自動運転ロボットの運行想定時の地下配送負担軽減の可能性を検証
実験の取組実施に伴う周辺での対策と影響把握	周辺への影響把握、本格運用に向けた課題抽出

①【複数年度(1年目)】歩行者利便増進道路制度の機動的な運用やエリア物流マネジメントによる都心部中通り魅力化に向けた社会実験(北海道札幌市)

4. 今後のスケジュール

- | | |
|------------------|------------------------------|
| ➤ 令和6年4月～5月 | 事前調査実施、とりまとめ |
| ➤ 令和6年6月～10月 | 道路空間の柔軟な活用実験、道路空間における賑わい創出実験 |
| ➤ 令和6年10月～11月 | 実験結果収集、効果検証、課題整理 |
| ➤ 令和6年12月～令和7年1月 | 関係機関調整 |

5. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
地域を巻き込んだまちづくりの要素が高い社会実験と感じているため、沿道商業施設が感じるメリットを評価してほしい。	沿道商業施設と連携し、実験後にテナント向けのアンケート調査による実験の評価の聞き取りを検討する。
大通南1条中通線の社会実験では、自転車も含めて歩行者以外は車道で対応できるよう検討してほしい。	実験時の道路空間検討で考慮するとともに、啓発によるルール遵守に取り組む。
さっぽろシャワー通りの社会実験では、キッチンカーを配置した際に歩道が狭くなるのであれば、シェアドスペースのようにして、自動車の通行や路上駐車をしにくくする運用について検討する価値がある。将来、交通規制をかけやすくなるのではないか。	実験時には、安全性に配慮しつつ、歩行者を通りやすく、かつ車両を通りにくくする運用を検討。

6. 評価

- ・ 順調に実験が進んでいる。
- ・ 次年度の実施内容が具体化されているため、継続して実験を行うことが妥当と考える。